

てびねり

七月号

平成21年7月1日発行
株式会社ゆしま陶助

同時開催「特別展」

伊勢神宮と神々の美術

染付・藍が彩るアジアの器

東京上野公園 東京国立博物館

伊勢神宮と神々の美術

会期 7月14日～9月6日

会場 平成館 特別展示室第3・4室



式年遷宮とは？
20年に1度、建物全てを建て直し、殿内の装束や神宝も新調して御神体を新しくした新宮に遷(うつ)すことを式年遷宮(しきねんせんぐう)と言うのだそうです。
(写真は特別展予告ポスターから転載)

伊勢神宮は20年に一度御神体を新宮に遷す「式年遷宮」が行われますが、第1回は690年の持統天皇の時といえますから、延々1300年も続けられており、平成25年(2013年)には62回目の遷宮が行われます。
この第62回式年遷宮を記念して、伊勢神宮の神宝をはじめ、古文書、考古遺物、絵画、彫刻、工芸品等が一同に展覧されます。古くから「お伊勢参り」は庶民の楽しみだったわけですが、上野の山でお気軽に「お伊勢参り」はいかがでしょうか。

染付・藍が彩るアジアの器

会期 7月14日～9月6日

会場 平成館 特別展示室第1・2室



会場は「伊勢神宮と神々の美術」と隣同士で会期も同じです。会場には重要文化財の中国景德鎮窯の壺や格調高い明(みん)の宮中御用達の染付の皿、日本の焼物に大きな影響を与えた朝鮮の染付や、日本では伊万里と鍋島染付など多数展示されます。陶芸の皆さん必見です。写真左上・重文「青花蓮池薄文壺」。右下・重文鍋島「染付蓮鷺文三足皿」。(写真・特別展予告HPから転載)

◆今月の制作風景

菅原淑子さん
伊羅保釉薬の攪拌中です。



山口和江さん
4個のマグカップの形を削って整えています。



井口誠子さん
赤土で少し大きめにピアマゲを作りました。大満足?!



石黒郁子さん
赤土でフリーカップ作成中。



石田純子さん
金魚鉢のポイントのところを削り整えています。



小野芳子さん
小ふた物へ慎重に金箔貼り。



畑山菊恵さん
奥田智美さん
仲良しのお二人です。



吉川富美子さん
お孫さん用のバスの形をしたランチプレートを作っています。



渡邊美知子さん
作品を白く仕上げたいので白化粧釉を攪拌している所です。冷たくないで平気です。



武田京子さん
大きな傘立てですね。釉薬を掛ける前にヤスリをかけて形を整えています。



近藤律子さん
地下1階の窯が開いたので、近藤さんが焼き上がったばかりの皆さんの作品の窯出しのお手伝いに来てくれました。どなたでも大歓迎です。地下の窯をのぞいて見ませんか。勉強になりますよ。(園部正樹)



渋谷洋子さん
大きな花器です。ふくろろは穴が...残念でしたね。



◆初級コースご紹介
安野裕美さん(5月23日入会)
2作品目の鉢の制作中。
よろしくお願ひいたします。



秋月聡子さん(6月16日入会)
1回目の湯呑を作っています。
よろしくお願ひいたします。



□私が勧める美味しい店

石臼挽き 手打ちそば・うどん

紀庵(きあん)

推薦者 平石規代さん

平石家はご夫妻とも蕎麦好きで、自宅から2〜3分のところに、お勤めの紀庵があります。紀庵の主人の太田守さんは、国産のそば粉にこだわり、茨城の農家と契約し、ご自分でも出向いて一緒に種まきや取り入れに参加しているほどです。

写真上 五目冷そば
写真下 契約農家のそば畑



その国産のそば粉を石臼で挽いて、お客様の顔を見てからゆでて出しますから少し待ちますが、挽きたて、打ちたて、ゆでたての蕎麦を、化学調味料は一切使っていないつゆで頂くのですから、美味しいことは間違いありません。酒のつまみも「豆腐の味噌漬」「ゆば刺し」「自家製らっきょう」など色々なものが揃っています。

石臼挽き 手打ちそば・うどん

紀庵(きあん)

場所:文京区小石川5-35-11
千川通りの白山3丁目信号を入って右側
電話:03 5689 0055



せいろ 840円・冷やし五目 1150円・鴨せいろ 1260円・天せいろ 1790円
合い盛り(そば、うどん) 950円

今月の作品

写真は実物と大きさが違う場合があります。作品の撮影とコメントは講師のみなさんにお願ひしています。

□木村紀子さん 「蚊取り台」



紐作りで四角に作り、ふたに透かし彫りをしました。釉薬は全体に黄瀬戸釉、ふたには織部釉を掛け合わせました。

□新津恭子さん 「板皿」



板皿の全面に彫りを入れて、そこへ辰砂釉を掛けて還元焼成しました。モダンに仕上がりました。

□近藤真弓さん 「花入れ」



白土で作ったひさご型の花入れに紅志野釉を掛け、酸化焼成しました。



□平石規代さん 「鉢カバー」



一本一本紐を組んで作り全体に黒マット釉を掛け酸化焼成しました。

□小畑明子さん 「鉢」



中側に白マット釉、外側は黒マット釉を掛け表面の丸い模様は色を抜いて上絵で白く出しました。

□高石昌和さん 「抹茶碗」



粉引の抹茶碗に上絵をしました。御本手の紅と上絵の色がきれいに出ました。

□佐藤真理さん [絵付鉢]

白土で作って鉄絵と色絵で下絵を描き透明釉を掛けました。縁は織部釉を掛け仕上げました。織部もきれいに出来ました。



□大塚美智江さん「ふた付マグ」



たっぷり入るふた付のマグカップに黄・緑・オレンジでモダンな上絵をしました。

□田口治喜さん 「伊羅保大鉢」



土鍋用の白土で作って、内と外に螺旋の彫りをして、伊羅保釉を掛けて酸化焼成しました。男らしい豪快な作品になりました。

□浅沼範子さん 「ふた置き」



ふた置きは小さな作品ですが、見やすいように拡大してあります。写真が不鮮明で恐縮です。三閑人のふた置きです。黄瀬戸を掛けた上絵で緑のワンポイントを入れました。お茶会でお使いになるのでしょうか。すてきなオリジナル作品です。

□金子裕子さん 「輪花鉢」



本科に入って初めての作品です。黄瀬戸釉に織部釉を掛けた梅型の鉢です。

□石黒郁子さん 「八角皿」



最初丸く作りその後八角形に切つて、中央には油滴天目。染付をして透明釉を掛けて仕上げました。

□小林和彦さん 「お香立て」



くじらの形のお香立てです。黒マット釉と白マット釉を使いリアルな表現になりました。

□石川宏さん 「鉢」



ロクロを巧みに使ったモダンな鉢です。ルリ釉での線象嵌がセンスを感じさせます。白マット釉と鉄赤で仕上げました。

□石松瑞枝さん 「そば猪口」



素地に紙テープでマスキングをして、黒マット釉とルリ釉を掛け、その後テープをはがし白マット釉を掛けて仕上げました。

□山本美津子さん 「蚊取り台」



赤土で作ったリアルな陸亀の形をした蚊取り台です。織部釉を薄めに掛けて濃淡を付けました。

見た事・聞いた事・読んだ事

人間が最初に発明したのは「うつわ」

6月の朝日新聞の天声人語に、人類が最初に発明した道具は、外国の高名な考古学者によれば「弓」だそうですが、この天声人語の筆者は最近陶芸教室に通っているらしく、日本で最初に器らしき物を作った縄文人の素晴らしさを称えていました。人が初めて化学変化を自覚して利用したのが土器作りだったといわれています。筆者の言葉を要因すると「土の塊りを練り、とりあえず形にする。日を置いてへらで削り、素焼き、上薬、本焼きへ。4回の実習と相応の出費で初心者なりにサラダが盛れる鉢ができた」と。そして「器づくりは作って楽しく、使ってみるといいという先達の言葉にうそはない」と。



古代の土器の挿絵から

そして先生の手ほどの下、使ったのは素朴な道具と両手のみ。縄文人たちもてびねりに精魂を込め、炎による化学変化に後を託し、生きて行くための煮炊きの道具を作ったのだらう、と結んでいます。

当ゆしま陶芸倶楽部でも大勢の会員のみなさんが、この天声人語の筆者と同じように、土の塊りからうつわ作りに挑戦し、すばらしい作品を作り出しています。縄文人とは違い、それは趣味のうつわであり、部屋を飾るものであり、プレゼントの作品だったり、作る人お一人お一人が個性を生かし多種多様な作品を生み出しています。

人類が最初に作った「うつわ」という道具は現代においても、人々を魅了して止みません。陶芸は作って楽しく、使ってみると、正に第一級の趣味と言えるのではないのでしょうか。我田引水でしょうか。

(佐藤)